

# 写真画像を用いた美しい街並みの特徴比較<1> -心理的色彩と物理的色彩の考察-

190441093 長屋 匠馬  
川澄研究室

## 1. はじめに

国土交通省は2003年に『美しい国づくり政策大綱』をまとめ、景観ガイドラインの整備に努めてきた。また、日本色彩学会では2020年より色彩視点から美的な心象風景を収集する『日本の美しい色風景』という活動を展開している。そのデータライブラリ[1]には、イメージ画像に加え、解説文や「主要な色彩」（主観的な情報）、時期や場所（客観的な情報）などが蓄積されている。

本研究では、美しい景観の色彩的特徴を地域別に把握し、地域毎の伝統や風土を守り継承していくための色彩指標を作成することを目指している。ここでは、データライブラリ内の保持データ10項目のうち2項目に注目し、対象地域は愛知県の3地域（一宮・常滑・有松）に絞り、色彩的特徴の比較を試みる。

## 2. 方法

3地域で比較する情報は、色風景データ中の「主要な色彩」および景観画像の色彩である。「主要な色彩」とは、Berlin & Kayによる基本の色彩語（11色：赤、黄、緑、青、茶、紫、ピンク、オレンジ、グレー、白、黒）[2]から推薦者により申告された色名（表1）を指し、主観情報（心理的色彩）といえる。また、客観情報（物理的色彩）として、景観画像において占有率の高い色彩を取り出す。

なお、比較対象である3地域の色風景の件数は、一宮33、常滑37、有松41である。画像の一例を図1に示す。

## 3. 結果と考察

「主要な色彩」として申告された色名を地域毎に集計し、選択率が高い順に左から並べた（図2）。その結果、

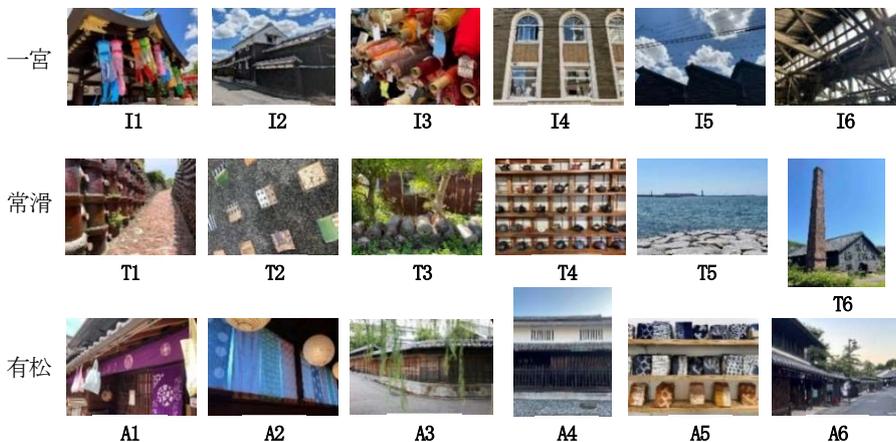


図1 景観画像の一例

茶色・白色・黒色・緑色の選択率が共通して高く、美しい色風景の基調色であると考察された。また、一宮は「たくさん」が上位に位置し、常滑は特に茶色の比率が高いなど、各地の伝統や地場産業（一宮は七夕や織物、常滑は窯業など）が深く関係していることも推察された。

一方、景観画像の色彩情報を確認したところ、一宮は数多くの色相や高彩度による色彩構成、常滑は茶・緑が基調の色彩構成、有松はクールで落ち着いた色合いに時々鮮やかな色相の構成などの特徴がみられ、心理的色彩は物理的色彩の中にも読み取れた。しかし、画像の中には主観的な印象に残らない色彩（アスファルトや空の色彩、陰など）も含まれるなどの留意点も確認された。

## 4. まとめ

色風景データの心理的色彩と物理的色彩を3地域で比較し、それぞれの特徴を考察した。美しさには心理的色彩が効いていると考えられるが、観察者の視点や状況（文脈）を含んだ結果であるため、写真画像だけでなく解説文や時期・場所などの情報などを追加して読み解く重要性を、改めて認識することができた。

## 参考文献

- [1] 日本色彩学会：日本の美しい色風景サイト <https://color-science.jp/colorscape/>（最終閲覧日：2023年1月23日）
- [2] B. Berlin & P. Kay 日高杏子訳：基本の色彩語—普遍性と進化について、法政大学出版局（2016）

表1 基本の色彩語（11種類）と追加選択肢

赤	オレンジ	黄	緑	青	紫	ピンク
茶	白	グレー	黒	たくさん	その他 (自由記入)	

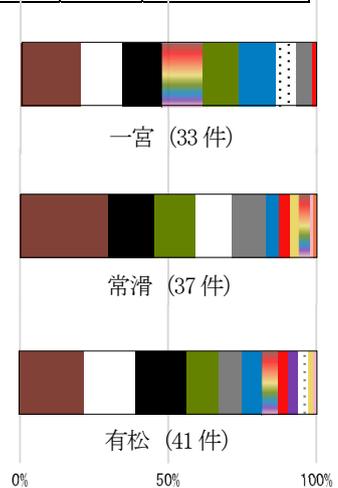


図2 「基本の色彩語」の選択率